

大阪湾漁場環境速報

平成30年1月12日発行
兵庫のり研究所

今回は時化のため、神戸地先から湾奥の地点のみの調査でした。大阪湾北部沿岸域において、窒素は全域で5 $\mu\text{g-at/L}$ 以上の値となっており栄養塩は十分量で推移しています。湾奥部周辺海域で小型珪藻が確認されますが、発生量は全般に少ない状況です。

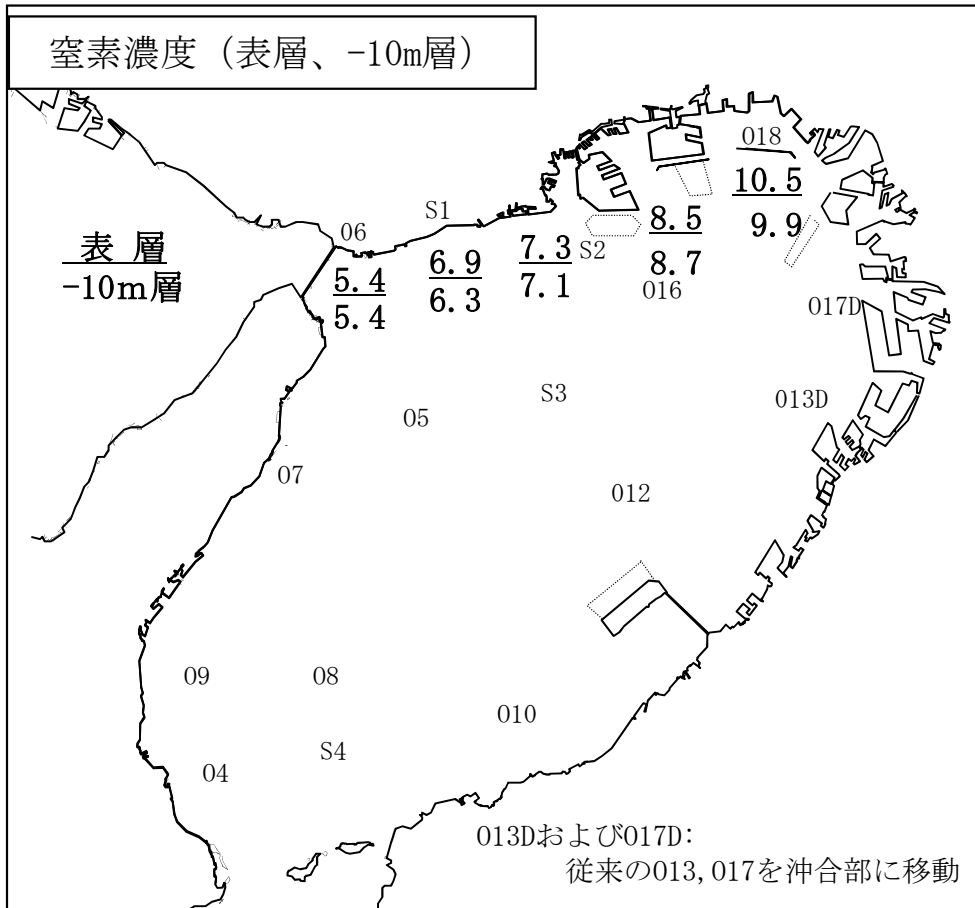
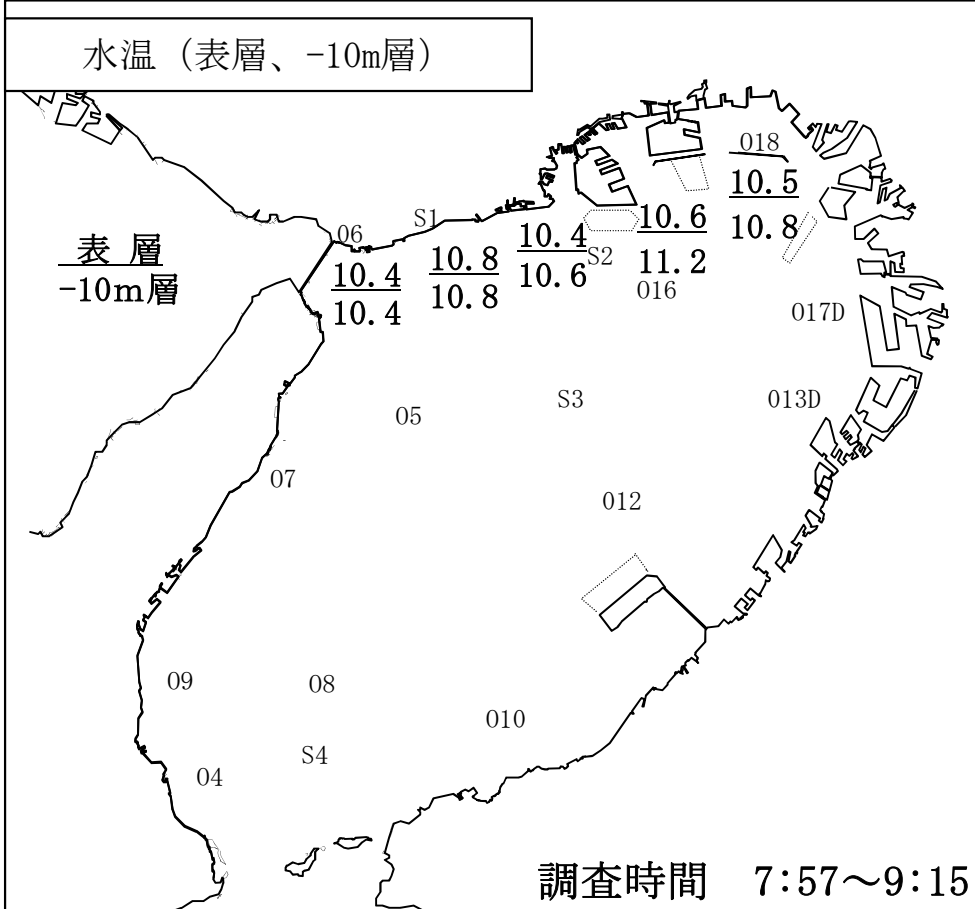
(水温) 表層は湾内10.4~10.8℃、平年と比較し約1.5℃低い。-10m層は10.4~11.2℃。

(塩分) 表層平均30.91~31.86psu(平年 31.80)。-10m層平均31.28~31.88psu(平年 32.23)。

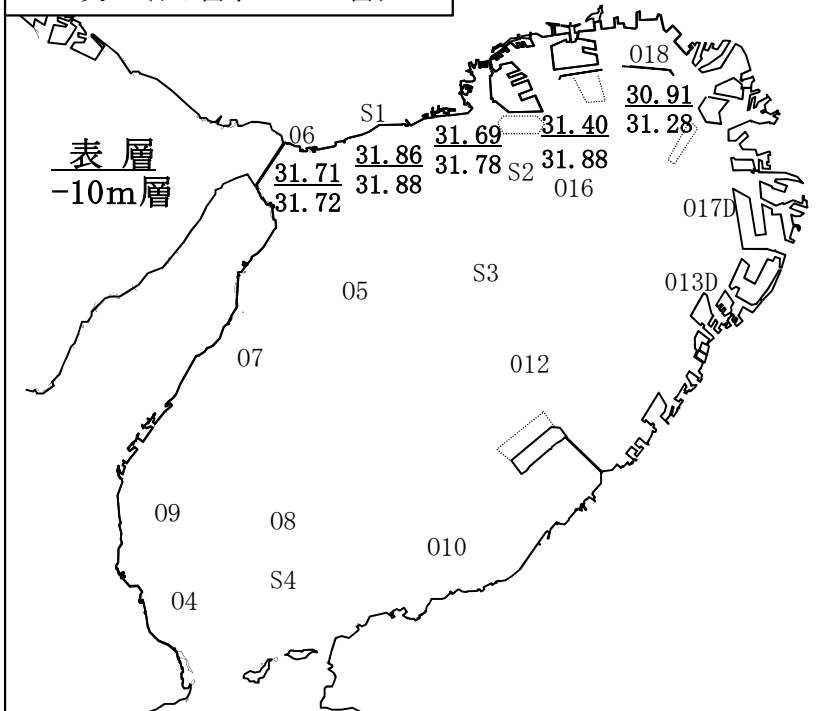
(栄養塩、他) 表層の窒素は5.4~10.5 $\mu\text{g-at/L}$ 、リンは0.49~0.56 $\mu\text{g-at/L}$ 。窒素は平年よりやや低く、リンは概ね平年並。-10m層は窒素5.4~9.9 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.50~0.57 $\mu\text{g-at/L}$ 。神戸空港東部から湾奥にかけては、小型珪藻のキートセロスやスケルトネマが確認されるが、今のところ特に問題となる発生量ではない。それ以外の海域ではコシノディスカスやユーカンピアが少し見られる程度で、この海域全般に珪藻の発生量は少ない状況。

上段 (今回値)	平成29年1月12日調査
中段 (昨年値)	平成29年1月5日調査
下段 (平年値)	1月上旬

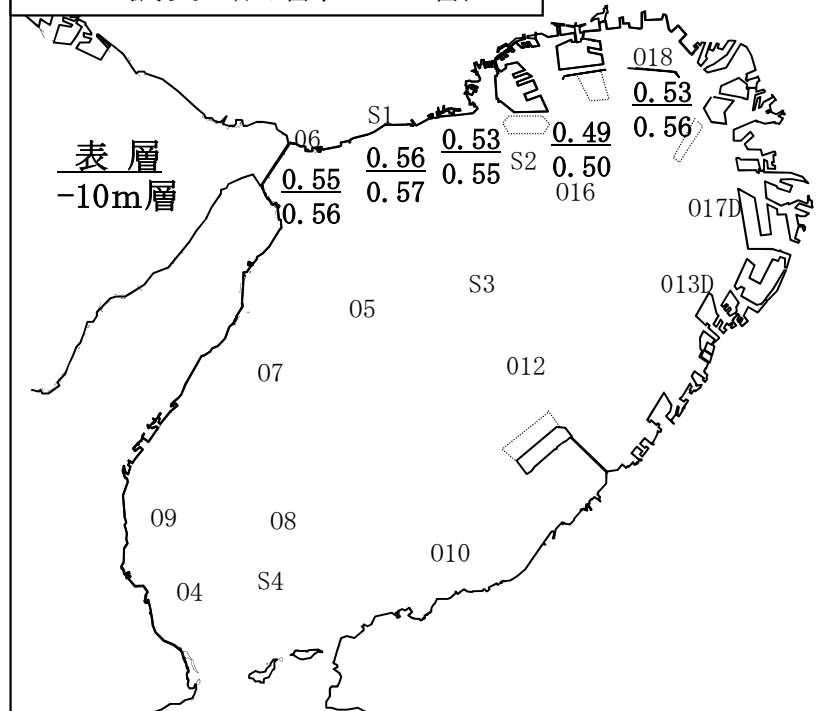
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	リン ($\mu\text{g-at/L}$)
04	13.2	32.79	6.7	0.58
05	14.0	31.94	6.9	0.63
	12.1	32.00	7.3	0.58
06	10.4	31.71	5.4	0.55
	14.0	32.03	7.2	0.64
07	14.1	32.01	6.9	0.63
	12.3	32.20	6.2	0.58
08	14.0	32.03	6.4	0.56
	12.8	32.30	6.4	0.58
09	14.1	32.10	6.4	0.58
	13.0	32.48	6.3	0.58
010	13.5	31.71	6.3	0.55
	12.0	32.08	7.1	0.55
012	12.6	30.55	12.7	0.62
	11.1	31.24	11.9	0.52
013D	12.6	30.06	14.0	0.64
	11.2	30.89	12.4	0.54
016	10.6	31.40	8.5	0.49
	12.8	29.43	16.3	0.65
017D	11.1	30.13	18.2	0.59
018	12.3	26.81	27.2	0.92
	10.7	29.05	26.1	0.73
S1	10.5	30.91	10.5	0.53
	14.4	31.20	12.9	0.81
S2	10.8	31.86	6.9	0.56
	14.1	32.02	7.2	0.64
S3	11.4	31.27	11.1	0.54
	10.4	31.69	7.3	0.53
S4	13.2	30.92	10.2	0.64
	11.1	30.71	14.3	0.54
013Dおよび017D: 従来の013, 017を沖合部に移動	12.9	30.76	10.3	0.58
	11.7	31.64	7.4	0.50
013Dおよび017D: 従来の013, 017を沖合部に移動	14.6	32.31	3.2	0.34
	12.7	32.50	6.7	0.59



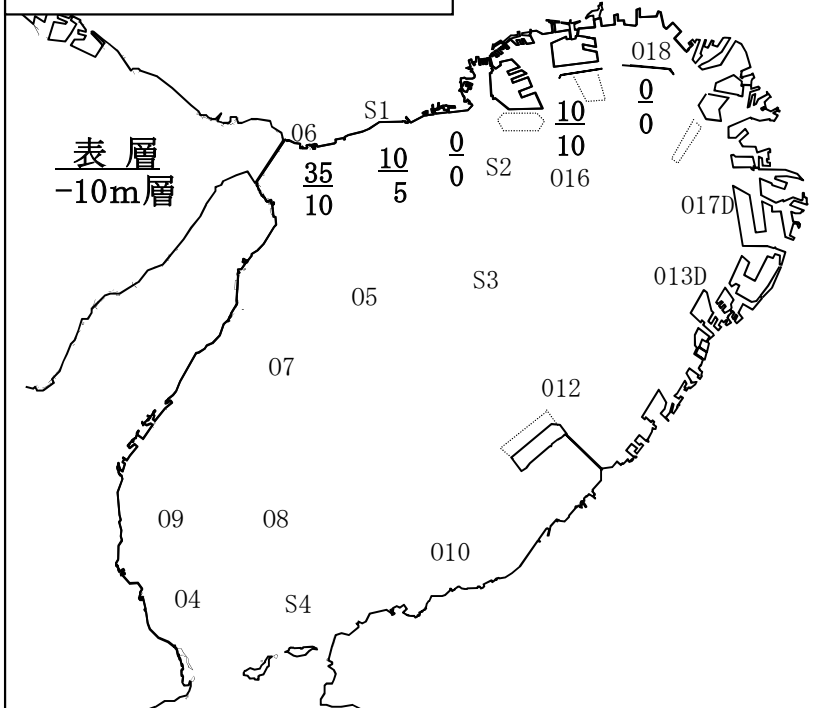
塩分 (表層、-10m層)



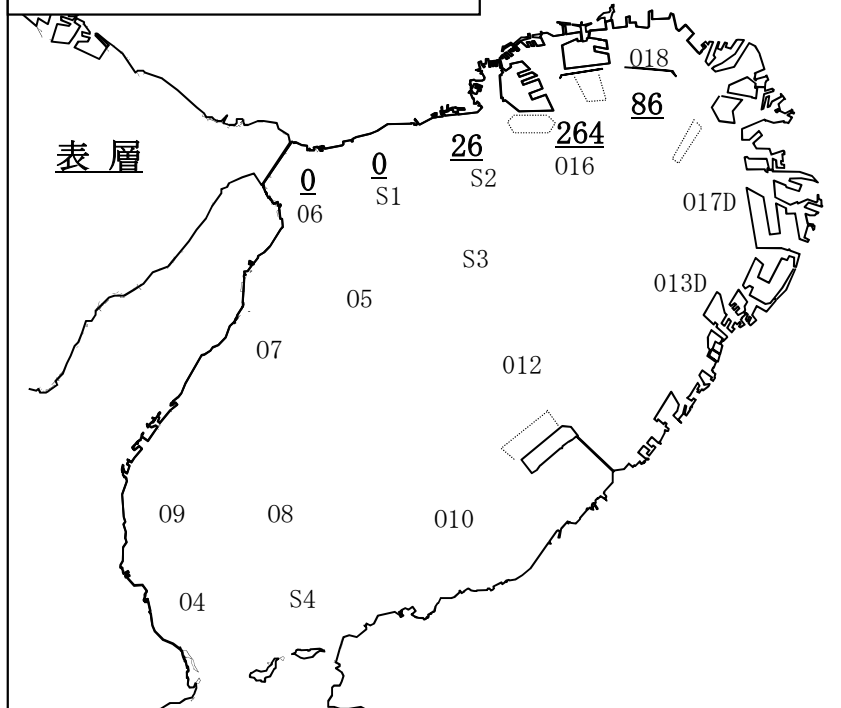
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

